

室生小だより 「桜梅桃李」

No.6

令和5年 6月15日(木)

(<http://www.murou-e.ed.city.uda.nara.jp/>)

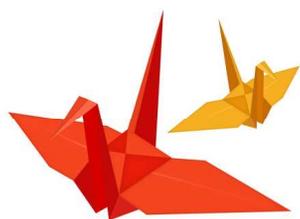
6年生へ ヒロシマの心(1)

コロナ禍前には、6年生は修学旅行で広島に行き、78年前に広島で何があったかを自分の「目で見」「耳で聞き」「手で触れ」て確かめ、不戦の決意を強くするのですが、今年はないません。しかし、現地に行けなくても“ヒロシマの心”を受け継いでほしいと思い、平和について考えるきっかけの一つになればと、広島にあるスポットを紹介しながら、今号から2回にわたって掲載します。



広島の平和公園内にある原爆ドームと原爆慰霊碑。この二つの建造物を結ぶ直線は、“平和の軸線”と呼ばれています。この言葉は、日本作品として史上初めて、米アカデミー賞の4部門にノミネートされた映画「ドライブ・マイ・カー」で、台詞として用いられ注目されました。

“平和の軸線”を考えたのは、建築家の丹下健三氏です。原爆ドームは当初、取り壊されることも検討されていましたが、丹下氏は平和公園の設計に際し、原爆慰霊碑の先にドームが見えるようにしました。被爆した建物を、二度と核兵器を使用しないためのシンボルに変えたのです。平和は訪れるものではなく、自分から創り出すもの——。これが丹下氏の平和に対する態度でした。だからこそ、被爆の悲惨な記憶を継ぎ、人々がそれぞれに平和を望み、祈ることを大切にしましたのです。



過去と未来— 両者を結ぶ“軸線”を描くのは、今を生きる私たちだと思います。核兵器の廃絶も、どこか彼方にあるのではありません。私たちの意思の線上にあるのです。

縁する人と友好を育むことで平和の“線”を描き出します。その線が幾重にも結ばれてこそ、世界平和という“面”が浮かび上がるのではないのでしょうか。核兵器廃絶のために、平和な社会を築くために、私たちには何ができるでしょう。(その2へ続く)

3年ぶりの水泳学習

名張市のイトマンスイミングスクールをお借りして水泳学習を3年ぶりに実施することができました。

4年生以下は初めて学校水泳をするので、プール内のルールや建物内のマナーなど、基本的なことから伝え、水に慣れることから始めていきました。

自校プールと違い、天候に左右されずに実施できるので、朝から雨が降っていても「先生、今日はプール入れる？」と聞く子がいないのが新鮮でした。全4回の水泳学習を無事故で進め、楽しんでほしいと思います。



← 2年生の作品
「スイミー」

5年生の作品→
「春の草花」



